



SPP引継ぎ案内

2024.4.13

作成（上坂）

# プラズマプロセッシング研究会(SPP) 概要

○プラズマプロセッシング研究会(Symposium on Plasma Processing; SPP) :  
1984年以降, 毎年開催されている

応用物理学会プラズマエレクトロニクス(PE)分科会主催の国内会議。

SPPは1984年の第1回(SPP-1)発足から第6回(SPP-6)まで単独開催。

第8回(SPP-8)以降, 3年ごとの開催は国際展開として,

反応性プラズマ国際会議 (ICRP/SPP) として開催

SPPNo.	開催地	国内会議共催/協賛/	国際会議共催	開催年月
SPP-41	東京 (東工大)			2024.01
SPP-40	仙台	SPSM35	ICRP-11, GEC-2022	2022.10
SPP-39	名古屋 (Online)	SPSM34		2022.01
SPP-38	金沢 (Online)	SPSM33		2021.01
SPP-37	Sapporo	SPSM32	ICRP-10, ICPIG-34	2019.07
SPP-36	高知	SPSM31		2019.01
SPP-35	姫路	Plasma Conf.2017		2017.11
SPP-34	札幌	SPSM29		2017.01
SPP-33	Honolulu		ICRP-9, GEC-68	2015.01
SPP-32	新潟	Plasma Conf.2014		2014.11
SPP-31	Fukuoka		ICRP-8	2014.02
SPP-30	浜松			2013.01
SPP-29	金沢	Plasma Conf.2011		2011.11
SPP-28	横浜			2010.02

さらにSPP-34以降は,  
日本学術振興会プラズマ材料科学  
第153委員会の国内会議SPSMとの  
共催。153委員会は産学連携を志向  
した委員会で, SPSMとの共同開催  
し, 企業研究者からの発表・招待  
講演を強化する狙い

⇒SPSM35で修了

# プラズマプロセッシング研究会(SPP)

-2024年度：単独開催（SPP-42）を検討中

開催日時：**2025年1月予定**

開催方式：**現地開催**

- ・ SPP担当はプログラム委員長＋プログラム委員になる
- ・ 幹事長＋プログラム委員長で重要意思決定

-2025年度：ICRPとの共催（SPP-43/ICRP-11）？

LOC委員長：検討前

LOC委員：検討前

- ・ 応物PE幹事メンバー，PE委員の多くの方には，LOC，Program Cなどに入っていたたく。

# プラズマプロセッシング研究会(SPP)概要

-2023年度 : SPP-42

開催日時 : **2025年1月 ぐらい3日間**

開催方式 : **2023年度 (SPP-41) からは再び現地開催**  
**(2020年度,2021年度はオンライン開催 (Webex))**

発表方法 : 一般講演については次の二つ(i)(ii)を予定

(i) **口頭発表(Contributed oral)= 15分発表 + Q&A**

(ii) **ポスター発表**

**(オンラインのときはShort oral = 7分発表 + Q&A**

**(従来のポスター発表の代わり)**

投稿締め切り : **10月 ぐらい予定**

Webpage : <https://gakkai-gran.jp/spp41/>

のようなものを立ち上げる

# プラズマプロセッシング研究会(SPP) 概要

## -2024年度：SPP42として応物PEで開催スケジュール案

- ・ **2023年12月までに**：開催場所，現地実行委員長の決定←**応物PE幹事長とも相談して**  
⇒**現在選定中**
- ・ 2024年4月：前々回，前回のSPP/SPSMのファイル群受け取り
- ・ 2024年4月：実行委員長はLOCとProgram委員(分科会担当幹事+α)を決定
- ・ 2024年5月：実行委員会の開催  
プログラム委員会の開催
  - a.招待講演者の選出（プレナリ1名，通常3名）  
→5月中に全招待講演者決定
  - b.テーマ決定：2023年5月
- ・ 2024年6月：Web立ち上げ，Call for paper，各学会への協賛依頼  
各社に広告・スポンサー依頼
- ・ 2024年8月：Proc. Paperの投稿開始，登録開始  
（応物事務様とも参加費管理を相談）
- ・ 2024年10月：Proc. Paper投稿締切
- ・ 2024年11月：査読（Oral/Poster，PE講演奨励賞）＋プログラム作成  
＋座長選定・依頼  
＋PE講演奨励賞審査委員会立ち上げ（審査員依頼）
- ・ 2024年12月：Webにプログラム公開
- ・ **2025年1月：現地開催**  
（PE講演奨励賞の審査結果集約→閉会式で表彰）  
開催後：PE講演奨励賞の報告書を幹事長に。幹事長が応物理事会に
- ・ 2025年2月：応物事務との参加費やりとり
- ・ 2025年3月：報告書



# SPP-41

The 41-st Symposium on Plasma Processing

January 23-25, 2024

東京工業大学 大岡山キャンパス

# 委員会

## 組織委員会

### 現地実行委員会

実行委員長	赤塚洋（東工大）
副実行委員長	竹内希（東工大）
実行委員	全俊豪（東工大）、野崎智洋（東工大）、沖野晃俊（東工大）、村上朝之（成蹊大）、稲田優貴（埼玉大）、北嶋武（防衛大学校）、宗岡均（東大）、中川雄介（都立大）、八井田朱音（東工大）

### プログラム委員会(順不同)

上坂裕之（岐阜大）、深沢正永（ソニー SSC.）、鎌滝晋礼（九大）、竹中弘祐（大阪大）、川口悟（室蘭工大）、桑原彬（名古屋大）、全俊豪（東工大）、田中宏昌（名古屋大）、谷出敦（SCREEN HD.）、伊藤智子（大阪大）



参加人数：合計 115 名

内訳：一般 66 名、学生 33 名、招待 14 名、リモート招待 2 名

講演件数：64 件

内訳：プレナリー 1 件（日立ハイテク 伊澤勝 様）、プラズマ材料科学賞 2023 受賞記念講演 1 件（名古屋大学 豊田浩孝 先生）、招待講演 5 件（うち 1 件は 2022 年プラズマ材料科学賞受賞記念講演(大阪公立大学 白藤立 先生)）、**シンポジウム講演 10 件**、一般講演 47 件（口頭 23 件、ポスター 24 件）

参考) SPP-39（オンライン）で参加126名、講演87件

- 開催日時 : **2024年1月23 (火) から25 (木)**  
開催方式 : **現地開催**  
発表方法 : 一般講演については次の二つ(i)(ii)  
(i) **口頭発表(Contributed oral)= 15分発表+Q&A**  
(ii) **ポスター発表**

Webpage : <https://gakkai-gran.jp/spp41/>

## 課題

- **SPSM36との共催予定がなくなったこともあり, 2パラ計画から1パラ実施に変更⇒DPSとの共催検討⇒要検討事項多数により早くてDPS2026から (DPS2026の実行委員会が2025年の夏ごろに立ち上がる? とするとその時点くらいには要打診)**
- **就職活動時期前倒しによりM1の参加が難しい**

## トピック

---

### 重点テーマ

- (P1) 次世代半導体に向けたプラズマプロセス
- (P2) プラズマの医療・バイオ分野・農業応用

### 一般テーマ

- 1) プロセッシングプラズマにおける素過程・モデリング
- 2) プロセッシングプラズマの診断・計測・モニタリング
- 3) 低ガス圧プロセッシングプラズマの生成および応用
- 4) 大気圧プラズマ・熱プラズマの生成および応用
- 5) 液相・気液界面プラズマの生成および応用
- 6) プラズマによる薄膜・表面プロセス（エッチング，薄膜形成，表面改質）
- 7) エレクトロニクス・ナノテクノロジー分野へのプラズマ応用
- 8) 環境・宇宙・エネルギー分野へのプラズマ応用
- 9) プラズマプロセッシングにおけるIoT/AI活用
- 10) 上記以外のプラズマ関連研究

# 招待講演

## 招待講演

### プレナリー招待講演

名前 (敬称略)	所属	題目
伊澤 勝	日立ハイテク	先端ロジック半導体デバイスのエッチング技術と課題

### 招待講演 (敬称略)

名前(敬称略)	所属	題目	LOC選出枠
古閑 一憲	九州大学	プラネタリバウンダリに貢献するプラズマ農業	
堤 隆嘉	名古屋大学	ALEにおけるプラズマ誘起欠陥とラジカル吸着のin-situ計測	
中野 俊樹	防衛大学校	狭ギャップ短パルス大気圧非平衡プラズマの生成と診断	←
白藤 立	大阪公立大学	液体のプラズマプロセッシングのための理想形態	
豊田 浩孝	名古屋大学	プラズマにおける高エネルギー粒子診断	

受賞記念講演

## SPP-41講演奨励賞

SPPでは、優れた一般講演論文を発表した若手研究者の功績を称えることを目的として、を設けています。

（規定：[http://spp39.gakkai-gran.jp/doc/SPP39\\_regulations.pdf](http://spp39.gakkai-gran.jp/doc/SPP39_regulations.pdf)）

以下の条件を満たす人が対象者となります。

- ・ 2026年4月1日時点で満35歳以下の者。
- ・ 論文の筆頭著者であること。
- ・ 登録された発表者であり、且つ、実際に発表した者。
- ・ 講演申し込み時に奨励賞を申請した者。但し、一人一件に限る。

< 審査 >

Abstract審査 → Oral発表審査 → 上位者

審査員：プログラム委員10名

(旧) 「プラズマプロセッシング研究会講演奨励賞」の規約

[https://annex.jsap.or.jp/plasma/PE\\_files/spp\\_young\\_award.html](https://annex.jsap.or.jp/plasma/PE_files/spp_young_award.html)

=====

- ・ プラズマエレクトロニクス講演奨励賞は2021年2月10日から施行でOK

- ・ 添付のPE会報No.75の3-4ページに記述がありました。  
「第一回プラズマエレクトロニクス講演奨励賞」は、  
第68回応物春季学術講演会(2021.3)の中の  
分科会30周年記念特別セッションの  
若手セッションでの講演に対して選考し授与  
(この時が特別であったようです)

- ・ 「第二回プラズマエレクトロニクス講演奨励賞」は  
SPP39@名城大Onlineでの講演に対して授与

- ・ 以降の「プラズマエレクトロニクス講演奨励賞」は  
SPPでの講演に対して授与することを引き継ぐ  
(PE会報No.75の4ページ目に記述あり)

- ・ SPP38@金沢Onlineでの講演に対しては  
プラズマプロセス研究会講演奨励賞 (SPP講演奨励賞)  
(PE会報No.74の35ページ目に記述あり)

[https://annex.jsap.or.jp/plasma/PE\\_files/2020-2/7\\_spp38.pdf](https://annex.jsap.or.jp/plasma/PE_files/2020-2/7_spp38.pdf)

- ・ SPP40はGEC2022/ICRP-11と共催

<https://www.ecei.tohoku.ac.jp/plasma/ICRP-11/Announcement.html>

- 「プラズマエレクトロニクス講演奨励賞」はない

=====

**SPP-41が「第三回プラズマエレクトロニクス講演奨励賞」**